

## 平成 29 年度 第 2 回八代地域認知症サポート医連絡会議 会議録

日時 : 平成 29 年 10 月 3 日 (金) 午後 6 時 00 分～8 時 00 分

場所 : セレクトロイヤル八代

出席者 : 認知症サポート医 10 名

精神科医 1 名

医療関係者 6 名

地域包括支援センター職員 6 名

行政 3 名

事務局 9 名

合計 35 名

- 議事 :
1. 講演『BPSD 入院患者における身体疾患の検討』
  2. 熊本県認知症サポート医アンケート調査結果報告
  3. 八代圏域認知症 BPSD センター事業報告
  4. 意見交換

### 意見交換

- ・地域住民の認知症への心配も多く、検査や急な専門医へのアクセスを求められたりする。
- ・今後もスキルアップの機会を作ってもらえれば。
- ・BPSD と身体疾患はすごく関連が多い。総合・労災の先生方の協力が必要になってくると感じた。
- ・入院となるとベッド状況などですぐに対応が難しい。その時はほかの病院へお願いしているのでコールセンターができたことはありがたい。
  
- ・BPSD 対策をすすめるにあたって地域住民と意見があわない面もあり、認知症サポーター養成なども課題。
- ・地域包括としても後任を育てて、地域密着型事業所がもっと病院と連携していかないとと思っている。
- ・医療保護入院について、家族がいないとき、成年後見人であれば同意者になれるが、そういった情報は地域にはまだ浸透していない。病院としてそこら辺の周知も必要になってくるのかなとしみじみ感じる。
- ・福祉ネットをつくって介護職や民生委員などとも連携しその中で認知症の話がでてきたときにはサポート医として話をするなど、地域啓発、地域とのつながりを行っている。包括支援センターの方々に頑張っていただきたい。

・サポート医の先生方にぜひ地域ケア会議に参加していただきたい。先生方がお忙しいときには、場所を提供していただければ私たちが出向きます。

・医師がいるところに集まるというのは良い方法。時間によっては病院を離れることができない。

・認知症サポート医だけでなく、医師全体に言える事。

・場所や時間、あらかじめ（1 ヶ月前など）に決めておく工夫があれば参加できると思う。

・多職種でのケア会議が一番大事だと思うがそこに、開業医が参加できるのかと言われたらなかなか時間を作れない。できれば、病院にきてもらい、時間外でもしてもらえるといいかな。

・情報は一つでも多い方が診療する側にとっても良い。ケア会議に出られなかった際の情報提供を逆にしてほしい。

・地域ケア会議については診療時間中のご出席を依頼することにこちらとしても気兼ねしている。結果についてはそういう事案が今後あれば報告させていただきたい。

・精神科医、一般科医の先生方との連携について こういう機会に顔を覚えていただいて何かあった時には相談していただければ。

・精神科への入院には医療保護入院など法律上のこともあるので、保健所にまず相談し、保健所から対応してもらおうとスムーズに行く場合もある。

・認知症の方々は自分の健康管理、自覚症状への対応が出来なくなっている。身体疾患が悪くなったのをきっかけにB P S D症状が悪化し、精神科に来られるケースが多い。

・事例で、身体疾患でイレウスが多いという印象をうけた。身体疾患を早めに対応していければ。B P S Dをお持ちだけど病棟では管理が難しいという方を少しでも院内でもみれるようにスキルアップして底上げができればと思う。

・家族が全くいないというケースについては手も足も出ない。

・身寄りのない方に困っているといわれたがそういうときに初期集中支援チームに入ってもらえるのか。

・初期集中支援チームについて対象者 身寄りがある・いないは関係ない。

・身寄りのない方だけがどうしようもない。家族さえおられればなんとかなる。できることとしたら他の機関に相談する事。人の善意で支えられている部分がまだまだ大きい。

・事業報告で相談機関がかかりつけ医以外に包括支援センターや有料老人ホームなどからあがっているのをみると、まだまだ主治医へ相談し辛いというのがあるのかなと。

・かかりつけ医を素通りで相談される方もいるが、専門医が患者さんを見るときには必ずかかりつけ医からの紹介状を働きかけている。ぜひ情報を教えていただきたい。